



沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学

学報

第65号

2018 年度キリスト教活動年間テーマ



抑圧からの解放・自由・希望に生きる

—Liberate from Oppression, Live with Hope—



■ 敬和学園との学術協定締結式

2018年4月23日



敬和学園大学と本学の「教育・学術交流に関する協定書」及び「学術交流に関する覚書」の調印式が、4月23日に行われました。本協定は、両大学・短大のキリスト教主義の建学の理念に基づいて、相互理解を深め、教育・学術・文化の提携関係を推進することを目的としています。協定内容は、(1)長期(1年)または短期(半年)の単位互換を目的とした学生の交流、(2)教員および職員の研究・教育ならびに研修のための交流、(3)その他両大学・短大が関心を持つ領域での研究・教育活動です。

敬和学園大学と本学は、キリスト教主義に基づき、自らの考えと価値観をつくりあげつつ、他者を受け入れ共に働く社会人を創るという目的を共有しています。本協定は、「単位互換」の仕組みを超えたより包括的内容となっており、今後は、それぞれの特色を活かした実りある教育・学術の互惠関係を築いていけるものと期待が高まります。

敬和学園大学の山田耕太学長から、「敬和学園大学は、平和教育に力を入れ、学生達が現場に直接身を置くことで、自分事として平和について考えるようになることを大切にしている。これから、小さく始めて大きく育てるという姿勢を大切に、プログラムを展開していきたい。」とのごあいさつをいただきました。調印式は、本学の友利廣学長の「新潟と沖縄は、歴史的にもつながりが深い地域である。これから、平和教育を共に推進していきたいと考えている。」とごあいさつで締めくくられました。

■ 培材(ペジェ)大学校(韓国：大田広域市)と協定を締結

協定締結日：2018年10月11日

本学は韓国の培材(ペジェ)大学校と、大学間交流協定を締結しました。培材大学校は、130年以上の伝統と歴史を有する高等教育機関です。培材大学校では「国際サマースクール」を夏休み期間に実施しています。世界各地から学生を招く大規模な国際交流事業とのことで、2018年度、協定の先がけとして本学学生2名を特別に招待していただきました。参加した学生からは、極めて充実したプログラムであったとの感想があり、今後、本格的な国際交流の達成が期待され、この度の協定締結に至りました。

本学と培材大学校は連携し、国際的な教育体験を学生に提供する予定です。培材大学校の皆さま方、この度、協定を締結させていただいたことに、心からの感謝を申し上げます。

CONTENTS

* 理事長あいさつ・学長あいさつ	2	* 国際交流活動	15
* 学院トピックス	3	* キャリア支援	16
* 【特集】沖縄キリスト教短期大学 創立60周年記念事業	4	* 2018年度 主な図書館行事	17
* キリ学祭	6	* 学生支援・活動	18
* 同窓会・後援会の活動	7	* この一年の取り組み～沖縄キリスト教平和総合研究所～	19
* 平和・キリスト教教育活動	8	* 地域貢献	20
* 沖縄キリスト教短期大学・大学院トピックス	10	* 退職教員・採用教員メッセージ	22
* 沖縄キリスト教短期大学トピックス	12	* 寄付感謝報告・2018年度人事・2017年度決算報告	23
* 大学・短期大学【共催】	14	* Open Campus 2019・大学見学・2020年度入試日程	24

私がキリスト教短期大学の保育科に入って私自身の力になったことは、子どもを保育する上で、子どもたちがどう育ってほしいかを大切に子どもが主体となる保育をすることが大切だと学ぶことができた実践していきの力になりました。(保育2年 SUYU)

みんなフレンドリーな学校で毎日笑顔いっぱい!!英語とか分からないことがあってもすぐに教えてくれる先生達。みんな優しいです。(英コミ1年 リナ)

私は、キリ学に入って良いと思った事は、上下関係がとてもないのと環境がよい所です。又、勉強面では、oralがとてもないです。週1のネイティブの先生とのコミュニケーションが素敵です。(英コミ2年 神本杏奈)

「幻」(ビジョン)

「幻がなければ民はちりぢりになる。教えを守る者は幸いである。」
(旧約聖書「箴言」29章18節【聖書協会共同訳】)

国内外で社会の分裂と混迷が続く中、私たちは将来展望の基本を何に置いたらいいのでしょうか。人生の指針となる規範のない時代にあって、大学は学生たちが生きる力を身につけるために、若者たちの将来のために何ができるでしょうか。

標題に掲げた「幻(ビジョン)」とは、将来の見通し・構想・青写真という意味です。聖書においては、神さまが夢や幻として特定の人に啓示されたご計画のことで、はかない非現実的なものではありません。ペンテコステの日、「老人は夢を見、若者は幻を見る。」(ヨエル書3章1節)とペトロは力強くイエス・キリストの福音を語り、その後キリスト教は全世界へ広まってきました(『使徒言行録』2章)。M.L.キング牧師の「私には夢がある(I have a dream)」という説教は人種差別撤廃を求める公民権運動の推進力になりました。また、本学創設者の一人である故仲里朝章牧師は、凄惨な戦争体験を通して本学設立の幻を与えられました。ビジョンは、望ましい将来像として多くの人に共有される時、社会を変える力になっていくのです。

私立大学は固有の教育理想を実現するために創設された社会的存在です。時流に迎合するのではなく、その教育理念を社会に発信し、将来を担う若い人たちを教育して社会に送り出す社会的責任があります。ビジョンのない組織はまとまりがなく滅びてしまうと古の賢人は指摘しています。

18歳人口が減少していく中、本学を取り巻く環境は厳しくなっていくものと予想されます。時代に即したビジョンは、学生・教職員に共有され、社会に認知され、将来の希望を与えるものでなければなりません。今こそ建学の精神に基づき、本学の将来像(ビジョン)を語り、学内合意を形成し、社会に発信して、その実現に向かって組織をあげて取り組んでいく時ではないでしょうか。

沖縄のソフト・パワーの担い手を育む

沖縄キリスト教短期大学は短期大学と四年制大学を併設する県内唯一の高等教育機関の特色を活かし、両校連携に基づく体験重視型の異文化研修を促し、他者への奉仕と少数者への寄り添いの精神を育む教育に取り組んでいます。かかる本学院の独自性を今少し説明します。

沖縄県が直面する喫緊の課題は、経済的困窮ゆえの大学進学率の低迷を打破することです。一方で、高校生の進学先が二極化する中で短期大学が苦戦している現状がありますが、この状況は短期大学の発想の硬直性が影響しており攻勢に転ずることが肝要です。

さて、両校種を併設することの意義ですが、何よりも県内高校生の進学先の選択肢を増やし、将来計画を見通す素養を磨くことに寄与できることです。そして入学後の効用として、短期大学が得意とする実務教育を短期集中的に学べることであり、同時に学問的専門性と応用力の修得を重視する四年制大学が併設されていることにより、両校種の豊富な科目群と教育プログラムを計画的に履修でき、学びの裾野を広げることができることです。さら

には本学院ならではの異文化体験を重視する教育と多彩な教授陣の指導によって、学びを深化できることは得難い財産になります。学生の皆さんには、これらの学びの成果をソフト・パワーに転じ、活躍できることを期待しています。

最後に、エフェソの信徒への手紙2章14節のみ言葉「私たちの社会の平和を実現するためには、人類は「和解」と「一致」に向かって歩み出さなければなりません。互いに理解を深め、誤解を解き、共に助け合い、支え合いながら、お互いの幸せのために力を尽くすことこそが、私たちの務めです。」を記します。



学校法人 沖縄キリスト教短期大学
理事長 伊波 美智子



沖縄キリスト教短期大学
学長 友利 廣

沖縄キリスト教学院 創立60周年記念事業

特集

沖縄キリスト教学院は、2017年に60周年という記念すべき年を迎えました。これまでの60年間の感謝を込めて、社会の第一線で活躍する同窓生と在学生によるトークイベントや、寄付講座、声楽演奏会を開催しました。

2018年11月10日(土)

■ 創立60周年記念シンポジウム

沖縄キリスト教学院は2017年に創立60周年を迎え、その記念事業の一環として、記念シンポジウムを2018年11月10日に開催しました。

「キリ学、キリ短から始まる私の未来」のテーマのもと、様々な分野で活躍している先輩達がキリ学・キリ短から培われた人間力。キリ学・キリ短だから見えた世界。キリ学・キリ短からどのような未来につながっていったのか、基調講演とシンポジウムの2部構成で在学生へ向けて語ってくれました。

第1部の「基調講演」では、山田真理子さん(英語科2007年卒業、フリーアナウンサー)に講演して頂きました。山田さんは、アナウンサーになるという夢を持ち続けながら学生生活をおくり、卒業後も進路で迷った際には、本学のキャリア支援課を訪れ、職員や先生方からアドバイスをもらい、現在のフリーアナウンサーという職業につなげていったことを話されました。



【第1部】山田真理子さんによる基調講演



第2部のシンポジウムでは、新垣誠教授がコーディネーターを務め、與儀 遙さん(保育科2008年卒業、すこやか未来保育園勤務)、山内 淳さん(人文学部 英語コミュニケーション学科2008年卒業、本大学 非常勤講師)、山田真理子さんがシンポジストとして登壇されました。様々な分野で活躍している3名の卒業生が、本学での思い出や学んだことを語り、また、保育園や大学、アナウンサークールという現場において、実際に教えるという職業に携わる中で、本学で得た学びや建学の精神をどのように心に留め、臨んでいるかについても語られました。

講演を引き受けていただきました山田真理子様、山内淳様、與儀遙様、本当にありがとうございました。また、キリ学祭との共同開催のなか会場へ足を運んで下さいました皆様へ併せて感謝を申し上げます。創立60周年記念シンポジウムは沖縄キリスト教学院60周年記念事業の一貫として開催されました。同事業には「修学支援のための給付型奨学金創設」もあり、在学生が学業へ専念できるよう、現在、募金へのご支援、ご協力を賜っております。在学生をはじめ卒業生および関係者、すべての皆様に本学院が支持されるよう教職員一同、より一層の大学の発展に尽力する所存です。

本学院をこれからもよろしくお願いいたします。



與儀 遙さん(左より3人目)、山内 淳さん(同5人目)、山田真理子さん(同6人目)



【第2部】シンポジウム

2018年10月2日(火)～2019年1月29日(火)

■ ワンアジア財団寄付講座 「沖縄の平和への道標とアジア共同体」

人文学部英語コミュニケーション学科 2018年度後期開設科目の「沖縄の平和への道標とアジア共同体」は、ワンアジア財団からの寛大な寄付を受けて実施されました。平和学の父 ヨハン・ガルトウング氏や鳩山由紀夫元首相など、大学、財団、研究所で活躍する多彩な講師陣からなる豪華ラインナップで、国際ボランティア、日本外交史、沖縄の歴史、東アジア共同体、戦争体験などをテーマに、中国、台湾、韓国などの隣国からの視座をまじえつつ、沖縄から「ひとつのアジア」を考えてみました。毎回の感想や質問からは、刺激的な雰囲気が伝わってきます。

受講生の声

- 沖縄の新たな可能性を強く感じました。
(英コミ3年次、第1回「国際ボランティア活動から見た平和の基礎条件と地域間連携」)
- 地域概念は政治的、歴史的な理由で移り変わっていくという事実が新しく面白かった。
(英コミ3年次、第2回「日本外交史から見た平和構築の可能性とアジア共同体」)
- アメリカの夢と中国の夢、この2つはそのまいくと衝突してしまうので、双方の平和、発展のためには互いに譲歩が必要だと思った。
(英コミ3年次、第3回「中国から考える東アジア緊張緩和への道程と地域共同体」)
- 香港、台湾のダイナミズムを知ると、とても若者の主体性が強いと感じた。
(英コミ3年次、第4回「台湾と沖縄の「脱辺境化」とアイデンティティ」)
- 私も、まだ戦争は終わっていないと思います。
(英コミ2年次、第8回「沖縄戦から学ぶ平和」)

受講生たちは、アジアが大きく変わっていくなかで、今沖縄に求められていることがあると強く感じたようでした。

2019年2月5日(火)

■ ワンアジア財団奨学金

ワンアジア財団からの寄付により実現した「沖縄の平和への道標とアジア共同体」では、受講生の中から成績の優秀な9人の学生に総額45万円の奨学金が授与されました。授賞式が行われた「レビュー／まとめ」の日には、ワンアジア財団から首席研究員の鄭俊坤(チョン・ジュンコン)先生が、世界のさまざまな国々を訪問した経験をもとに財団の理念と実践について平易に語りました。

沖縄キリスト教学院 創立60周年記念募金

修学支援のための給付型奨学金創設

創立60周年記念事業の一環として、修学支援のための給付型奨学金創設事業を進めております。これまでに企業、団体、同窓生、大学関係者、教会の皆様から多大なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

(目標額:五千万円、募集期間:2020年3月まで)

¥6,157,482

(2019年2月末日現在)



創立60周年記念募金給付型奨学金へのご寄付ありがとうございました。

沖縄インターナショナル教会 様



(左から)中村喜信牧師、神山繁貴牧師

沖縄石油ガス株式会社 様



(左から3人目)寄付金を手渡される幸喜徳子様

ふえーぬかじカルテット 様



(左から3人目)玉城達也様、親泊正善様



【第7回】2018.11.27
キリスト教と沖縄の
体験的平和論とアジア

日本基督教団 沖縄教区
平良 修氏



【第11回】2018.12.22
絶対的平和論から沖縄とアジアの平和を論ず

トランセンド平和大学
ヨハン・ガルトウング氏



【第14回】2019.1.22 東アジア共同体の構築

東アジア共同体研究所 鳩山 由紀夫氏



【第6回】2018.11.20 アジア共同体を考える

ワンアジア財団 佐藤 洋治氏



学院創立60周年記念コンサート (2018年7月12日(木))

■ 「A Voi・Serenità Solist Ensemble ～あなたへ～」による声楽演奏会



メンバー全員による迫力あるコーラス

仲里朝章記念チャペルにおいて、創立60周年を記念した声楽コンサートが、ウチナーンチュの宮城里美さんを含む韓国の声楽家団体(Serenita Solist Ensemble)によって催されました。

メンバーは、本場イタリアで研鑽をつみヨーロッパ各地のコンクールで上位入賞を果たした実力者たちです。その美しく迫力にあふれた歌声は、聴く者達を圧倒し大きな感動を与えました。世界レベルの声楽演奏に接して、「クラシック音楽への眼が開かれた」と語る学生もいました。

終演後も観客は、アンコールを含む全19曲の声楽演奏の余韻に浸りました。

※このコンサートの収益金の一部は、本学院60周年事業として学生たちの「修学支援のための給付型奨学金」としてご寄付いただきました。



美しい歌声で「ハバネラ」を歌う
宮城 里美さん

「Your life is amazing——キリ学、キリ短から始まる私の未来」
「We create our own future——自分の未来は自分でつかめ！」



2018年度 学生会長
英語コミュニケーション学科 2 年次
城間 柚希



第54回キリ学祭は学院60周年記念事業と共に開催され、上記の2つのテーマのもと、未来へと導く強いメッセージ性のあるアーティストをお呼びし、ダンス、歌、大道芸など多種多様なプログラムとなりました。

飲食ブースや、フリーマーケットをはじめ、アカデミックな出店ブースや、ミニ保育園など、大人から子どもまで皆が楽しめる場になりました。

準備当初は、学生会メンバーの心が1つにならず、準備が前に進まずもどかしい思いをしてました。何をやっても空回りのように感じ、自らも苦しかったのを覚えています。

しかし、私たち学生会は切羽つまと本領を発揮します！学祭まで残り1週間を切った途端、今まで前に進まなかったことが嘘のように、仲間同士、手を取り合い協力し、キリ学祭という1つの目標に向かって猛進しました。成功と失敗の瀬戸際でしたが、この学生会メンバーだったからこそ、キリ学祭は成し遂げられたのだと思います。こんなにもステキな学祭を開催できたのは、キリ学祭へのご理解をいただき、支えてくださった多くの皆様のおかげです。一生忘れないような出来事、そんなキリ学祭になりました。お力添え本当にありがとうございました。



地域に感謝の意を込めて

WLO (We Love Okinawa) サークルは、沖縄を住みよいきれいな島にしたいという志を持った学生が集まり、2006年5月に立ち上げたサークルです。本サークルの清掃活動等は、西原町を中心に行っています。今年度で12年目を迎え、清掃活動も106回行い、回収したゴミは1,603kgを超えました。(2018年12月現在、第43回から計量)

105回目の清掃活動は、普段からお世話になっている地域に対して感謝の意を込め本学の学生会メンバーとキリ学祭前に行いました。その活動では、11kgのゴミを回収しました。ポイ捨て等のゴミがなくなることを願いながら、今後もWLOサークルは、清掃活動を続けていきたいと思ひます。

最後にこれまで行ってきた清掃活動に参加した皆様、関わってきた皆様に心から感謝いたします。今後ともWLOサークルの清掃活動へのご協力、よろしくお願いします。



同窓会 活動報告

6月29日(金)、沖縄キリスト教学院シャローム会館にて定期総会と懇親会が開催され、1期生から55期生の総勢37名の会員が参加しました。佐久本敦子評議員の司会で総会が始まり、譜久原朝儀会長の開会挨拶に続き花城安夫評議員が議長に選任され、審議事項4議案が満場一致で承認されました。総会後の懇親会は、鈴木紀子評議員の司会進行で前里光信副会長の挨拶の後、新垣友子先生(本学教授)による『語やびらしまくとぅば』と題した講話があり、和やかなひと時を持ちました。

懇親会での講話を機に「しまんちゅ倶楽部」(顧問:新垣友子教授)の学生とうちなーぐちで会話をしながらの『ランチテーブル』を開催しています。関心のある方はどなたでも参加できます。



懇親会の様子



新垣友子先生による講話



ランチテーブルの様子

11月10日(土)、キリ学祭の開催期間に合わせてユニオンで茶話会を開催しました。当日は、学院主催の創立60周年記念シンポジウムが開催され、シンポジストとして参加された同窓生の山田真理子氏(2007年英語科卒)と山内淳氏(2008年英語コミュニケーション学科卒)のお二人も茶話会に足を運ばれ、記念撮影を行いました。

同窓会の継続活動として、給付型奨学金(6名採用)やキリ学祭援助金の授与、学生会役員との懇親会、新入生への記念品の贈呈、県外就活の助成なども行っています。



茶話会での記念撮影

同窓会からのお願い

同窓会ではデータによる会員名簿の整備を進めています。

① 住所 ② 氏名 ③ 電話番号 ④ 勤務先

変更等をお知らせください

【連絡先】 同窓会事務局

TEL/FAX:098-946-1280

E-mail: dousoukai@ocjc.ac.jp



同窓会・後援会



譜久原朝儀会長と奨学生

後援会 活動報告

4月2日(月)、入学式後に本学体育館にて総会が開催され、2017年度決算報告及び2018年度予算が承認され、新後援会会長に比嘉國郎氏(社会医療法人友愛会理事長、本学院第7代理事長)が選任されました。

12月20日(木)、奨学金授与式が執り行われ、後援会より10名の学生に給付型奨学金が授与されました。

その他に、学校が行う教育活動事業全般と施設設備の援助、キリ学祭や県外就活学生への支援なども行っております。

後援会は、会則第2条に定めるとおり「学院の目的及び事業に協力し、学院の維持発展並びに学生の福祉増進に寄与すること」を目的として設置しています。普通会员である保護者の中から、各学科1名の役員を選出し、賛助会員の皆様とともに本会を運営しています。後援会では、賛助会員の拡大を目指しており、本会の趣旨にご賛同頂ける方はどなたでもご加入できます。



総会の様子



比嘉國郎会長を囲んで

クリスマス礼拝・祝会

神はなにゆえ人となられたか

2018年12月21日

12月21日(金)午後6時より仲里朝章記念チャペルで、クリスマス礼拝が行なわれました。司会は人文学部3年の新垣詩奈さん、説教は第二代学長の平良修牧師より「神はなにゆえ人となられたか」と題して行われました。音楽は真栄城隆司名誉教授の指揮するストリング・アンサンブル、他音楽担当の先生方3人と聖歌隊・キリスト教芸術クラスの学生たちでした。ハレルヤコーラス他の讃美歌が心を込めて演奏されました。又、ウチナーグチをはじめ、本学院の学生・教職員が関係する8カ国の言語により聖書のクリスマス物語が朗読され、手話クラスの学生による賛美と献金が捧げられました。礼拝後、体育館で食事を囲んで祝会がもたれました。友利学長の挨拶にはじまり、三線・太鼓による「かぎやで風」児童文化研究サークル、ヴァイオリン、ピアノ、歌の他、教員によるエレキバンド演奏もあり、最後に全員で「聖しこの夜」を歌って伊波美智子理事長の祈りで閉会することができました。



サマー聖書キャンプ

学院の母教会・ホームレスの人々と

2018年8月16日・17日

一日目は、沖縄キリスト教学院の生みの教会となった、日本基督教団沖縄教区首里教会から始まりました。教会最長老格の比嘉文子さんを講師に首里教会と沖縄キリスト教学院出発の歴史を教えてくださいました。その後、日本バプテスト連盟那覇新都心キリスト教会で、ホームレス支援を宣教の課題とされる岡田有右牧師から、支援の歴史と活動についての講演をいただいてから、実際にホームレスの方々におにぎりを配り市内を巡回しました。二日目は、宿所の「宜野湾セミナーハウス」で朝礼拝を持った後、金永秀宗教部長による「平和について」の主題講演がありました。預言者エリアの時代と教えを中心に学びました。聖書の語る「平和」が当時の政治状況の中でいかに語られたことかを学びました。その後、佐喜真美術館での見学をした後、西原キラキラビーチでのバーベキューを楽しんで閉会いたしました。



サマー聖書キャンプ



那覇新都心バプテスト教会
岡田牧師の講話



資料館で比嘉文子さんの説明を聴く



沖縄キリスト教センターでの講話
「平和について」



日本基督教団首里教会のみなさんと



首里教会資料館で

前期・後期キリスト教週間

沖縄とイスラエルから平和を問う

前期：2018年 4月23日～4月27日
後期：2018年10月22日～10月26日

【前期講演会】平良悦美氏(第二代学長夫人)を講師に迎えて「主よ、私の主よ、私たちの主よ」という題で行われました。氏は教会の牧師夫人として、又、平和市民運動にも体を張って関わって来られました。沖縄の教会で眼に見えない貴重なお働きをなさっています。ヤマトに生まれ育った方ですが、かつての沖縄の姿を描写してください、一般的にヤマトでは考えられない過酷な沖縄の状況の中でキリスト者として生きる信仰の在り方を、私たちに示されました。

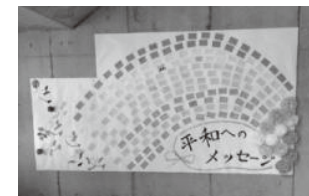


讃美チャリティー募金 for パレスチナ



平良悦美氏(前期キリスト教講演会)

【後期講演会】講師のダニー・ネフセタイ氏は、イスラエルで生まれ育った方です。現在は、埼玉県で日本の伝統家具の職人として働きながら平和の啓蒙活動をなさっています。故国で軍役に服した経験から、軍隊の本質を深く洞察しておられます。在日30年の見事な日本語を駆使して、日本の平和の危機と共にヨーロッパにおけるユダヤ人の被抑圧の歴史と軍隊の関係等を平易で力強く語ってくださいました。



「平和へのメッセージ」



ダニー・ネフセタイ氏(後期キリスト教講演会)

沖縄・アジアフレンドシップアワー

平和を実現する人々は、幸いである

2019年2月17日

今年度は、学生と教職員7人の参加者とともに小禄聖マタイ教会(豊見城市豊見城)の礼拝に参加しました。聖公会の伝統的な礼拝スタイルや聖餐式を体験し、共に恵みに預かりました。礼拝後は、お弁当や茶菓子などをいただきながら交流しました。その後、塚田響さん(保育科1年)のピアノに合わせて賛美を披露しました。ハム・ユンスク司祭は、韓国の聖公会についてや、なぜ沖縄に来られたかなどを韓国語で熱く私たちに語ってくださいました。金永秀宗教部長が通訳し、良い学びと賛美の時となりました。この教会には併設の聖マタイ幼稚園があり、保育実習でお世話になった学生もあるかと思います。現在地に移転前の1974年、水道工事の際、不発弾(日本軍が敷いた地雷)が爆発し、3歳の幼児を含む4人が死亡するという痛ましい事故がありました。園庭の祈念碑前で説明を受け、恒久平和への祈りと願いを共有いたしました。



交流会での賛美



祈念碑の前で

学生宗教委員会 (HOPE) について

キリスト教信仰に立つ、本学ならではの大切な学生組織です。毎週月曜日に行われる礼拝の司会や、礼拝音楽の演奏、キリスト教行事の企画・運営その他のキリスト教関連行事を行います。礼拝の演奏では、ピアノ・チャーチオルガンなどの楽器の操作を学んで演奏する学生もいます。また、キリスト教行事ではコンサート、演劇、料理などのプログラムを企画しました。学生宗教委員のそれぞれの特技や個性を生かして活動しています。クリスチャンでない学生も参加歓迎です。今後もさまざまな学生に関わってもらいたいと思います。



月曜礼拝

本学院では、毎週月曜日(午前9:50～10:30)に礼拝を行っています。ネイティブスピーカー教員による英語礼拝や学生企画礼拝なども実施しており、学生が司会やピアノ・オルガンの奏楽に関わっています。また、日本語から英語への同時通訳が教員指導の下行なわれます。礼拝は神を賛美し、祈り、聖書の言葉を聞く時ですが、それはまた、キリスト者でない人にも生きる意味を問う時でもあり、キリスト教主義教育の根幹となる大事な時間です。



★ 多読の授業は自分のペースで読みたい本を読めるし、数字で結果が見えてくるから楽しかったです。(英語1年)

🎧 キリ子に入って、周りの友だちが英語を勉強したいという同じ目標を持った人が多いのでお互い高めあえる。高校生の時とくに比べてネイティブの人たちとしゃべる機会がふえた。(英コミ2年 末吉柚希)

🎒 キリ子に入って、自分の世界が広がったし、友達もたくさん出来ました。2年間で得た力を大切に、保育の夢を叶えるために頑張ります。(保育2年 なー)

✉ 英語のスキル向上にかぎらず、日本から見た外国や、日本の事、様々な視点から他文化や自国文化について深く学ぶことができる。その一つの手段として英語を学ぶという風に考えるようになり、より充実した学びになる。(2年)

オックスフォード大学で学ぶ

サマープログラム



Blenheim Palace



Radcliffe Camera



New College Dining Hall



Abbey Road, London



Oxford High Street Reflection



Blenheim Palace Gardens



Magdalen College Tower



The Queen's Life Guard, London

今年で、2年目となるオックスフォード大学サマープログラムは、9人の学生が参加しました。Christopher Valvona教授が引率し、先生の母校であるオックスフォード大学内の、セイント・エドモンドホールのキャンパスで、イギリスの文化を中心に学んできました。参加者は全9日間を大学の寮で過ごし、イギリスの大学生と同じ生活を体験してきました。授業には、同大学の卒業生と大学院生を招き、英国の歴史や文化、現代社会などを学び、また、オックスフォード周辺のガイドツアーに参加したり、在学生アシスタントと交流をしたりするなど、自分たちで計画したロンドンへの観光も実現させました。これらの視察は、全て英語で行われました。

ある午前中のプログラムでは、オックスフォード大学と教育、英国文学とオックスフォード縁の作家、歴史（特にヘンリー8世時代とカトリック教との離別）、貴族と階級システム、イギリスポップカルチャーなどについて学び、講義後のQ&Aでは、授業の理解度チェックが行われました。午後のプログラムは、午前中に学んだものをより深く理解するために、オックスフォード地域とロンドンを中心に視察や体験を行いました。その内容は、オックスフォード大学内見学、アシュモレアン博物館、数多くの文豪を生んだクライストチャーチの見学（映画ハリー・ポッターのロケ地）や、アリスストア、ブレナム宮殿ツアー、アフタヌーンティー体験、植物園見学など、ロンドンではミュージカルも観劇しました。また、オックスフォード名物の遊びである船漕ぎも体験したりするなど、研修を満喫しました。

参加した学生達は、「非常に良い経験ができた」と報告し、帰国後のアンケートでは「英語学習意欲が増した」、「英語で他の文化も学びたい」、「知識が増し、視野が広がった」等の回答もありました。

今回行われたプログラムの内容は、昨年の良いところをさらにステップアップさせたこともあり、学生にとって貴重な体験ができました。2019年度からは、「British Cultural Studies」（英国文化スタディ）という英語コミュニケーション学科の新しい科目を提供する予定となっており、今後は多くの学生が参加し、学科のカリキュラムに深みと特色をもたらすことになることを願っています。



New College



Christ Church College



Christ Church Cathedral



St Edmund Hall



St Hilda's College
(from the river)



Punting

学生生活を充実したものにする教職課程での学び

教職課程

今年度は、6名の学生が教職課程を修了しました。質保証の観点から、本学では3年進級時にスクリーニングテストを実施していますが、学業成績や英語力に加え、課題エッセイや日英語による面接試験を課し、基準を満たした学生のみが履修を認められます。その結果、今年度の修了者数は6名でしたが、少人数の利点を生かし、教育実習の事前指導もより充実した取組を行えました。教育実習でも、授業力の高さを評価するお褒めの言葉を数多く頂きました。教育実習では、一人ひとりが与えられた環境の中で最善を尽くし、教師としての日々の仕事に真摯に向き合い、人としても大きく成長を遂げることができました。教職課程履修開始時の動機は学生によって様々ですが、修了報告会では、誰もが教職課程における学びの意義や価値に言及していました。教職課程で学び得た知識や経験が糧となり、学生たちの今後の人生をより豊かなものにすることを念じてやみません。



キリ学はめっちゃ英語学習が充実!!一緒に高め合える仲間や優しい先生方がたくさんいて大学生活が楽しいです。(英コミ1年 小松未歩)

英語だけでなく、国際関係やジェンダーに加え、沖縄の各分野(言語・歴史・政治)のエキスパートが揃う豪華教員陣。韓国語・中国語・スペイン語といった外国語。学問の他にも、宿泊研修や英語スピーチ、キリ学祭などイベント多数。夏休みはアジアやヨーロッパでの研修もあります☆(英コミ4年 RS)

ゼミ紹介

新垣友子 教授

言葉の研究をととして人、地域、社会を知る。そんな学びを目指しています。基本文献や学術論文を輪読するのももちろんですが、テーマは本や論文以外の自分の中から湧き出る「なぜ?」から導きだせるよう日頃から「研究ノート」をつけることを奨励しています。日常生活で感じた「問い」をメモして持ち寄り、ゼミ内で議論することで頭を耕していきます。

「バイト先で『帰りましようね』と言ったら笑われた。なぜ?」「『なんだばー?』の『ばー』って何?」「『こちらは焼肉定食になります』の『なります』って間違っているの?」等、日々の生活から多くの「問い」が生まれ、議論され、卒論のテーマへと発展していきます。

多いテーマは、琉球の言葉。祖父母に習って「うちなーぐち」のデータを分析したり、同世代の若者が話す「うちなーやまとうぐち」の研究をしたり、学生達は、文献講読のみでは書けないオリジナリティの高い研究に日々挑戦しています。

フィリピン実習

海外ボランティア実習は、「貧富の差」や「豊かさとは、幸せとは」、「アジアの隣人へ寄り添う」などをテーマに、毎年8月～9月にフィリピンで実施します。2018年度は、「バニユーハイ」という新しいコミュニティでホームステイをしました。たった1泊2日の交流でしたが、帰る頃には皆、涙で再会を誓いました。「パコ・マニラ」というスラム街では住民に加え、コミュニティのリーダー達とも交流を深めました。マザー・テレサの施設のボランティア活動では、朝5時から洗濯や施設の掃除をしました。シスター達の姿から「弱者の側に立つ」ことの意味を、学生らは実感したよう



です。学生達は帰国後も、自分たちが目の当たりにした現状を伝えるべく、西原町「わくわくワーク」で企画を立ち上げ、キリ学祭では展示を手がけました。在沖フィリピン人と交流したり、OISTなどで何度もプレゼンテーションを行いました。また、バニユーハイの子ども達に文房具や服を届けるべく、「Christmas Gift for Banyuhay」というプロジェクトを立ち上げ、キャンパス内のみならず県内の企業からも寄付を集めるなど、何度もミーティングを開いては知恵を出し合い、現在も精力的に活動を続けています。



沖縄キリスト教学院大学大学院

大学院の新体制

異文化コミュニケーション学研究科の体制が新しくなりました。

英語教育では、大城直人准教授とChristopher Valvona教授の若手ソートップです。大城准教授は教育現場での豊富な経験を活かし、英語教育の理論に加え実践に関しても確実な指導力を備えています。沖縄の英語教育の課題を熟知しており、英語教育と観光といったテーマについても取り組まれています。Valvona教授は名門Oxford大学出身で、タスクベース学習など世界最先端の英語教育を実践するグローバルな指導者です。

異文化交流では仲里和花准教授が、沖縄在住フィリピン女性の研究を通して、多文化社会沖縄の実現へと取り組んでいます。

新垣友子教授は琉球語研究の権威で、少数言語、人権、沖縄のアイデンティティといった視点から言語教育を考えています。

このような若手の教授陣の存在が、沖縄の英語教育に新たな問題意識をもたらし、本研究科のプログラムに新しい風を吹き込んでいます。

ネイティブスピーカーの先生方と毎日気軽にコミュニケーションを取り合えるのが一番の魅力だと思います。楽しみながら英語力を磨いていくことが、英語力上達の一番の秘訣だと思う。(英コミ2年)

I am glad I chose OCU! That is because this university gives us important values. My world has opened up thanks to learning here. I am having fulfilling days! (英コミ2年 t☆aka)

「ホスピタリティ＆ツーリズム」は沖縄の観光産業の仕組みの理解を深めるという趣旨で開設された授業です。1年次の3月から就職活動が始まることを考慮すると、短大生は就職に向けて計画的に行動する必要があります。観光立県としてインバウンドへのニーズが毎年高まる沖縄では、英語のニーズも同時に高まっています。こういった状況を鑑み、短大英語科は沖縄経済を担う人材育成の観点から、2018年度より「英語＋観光」のクラスを開設しました。意欲的に学び、実践する態度を身につけてもらうため、演習・講和・見学＋研修といったアクティブラーニング形式を取り入れた授業構成になっています。今学期は沖縄ソーリスト株式会社（以下OTS）、リザンシーパークホテル谷茶ベイ、そして日本トランスオーシャン航空株式会社（以下JTA）の3社から協力を得ることができました。

OTSではインバウンドと観光地を結ぶ役目を果たすレンタカーのニーズが急激に成長し、現場では社員と訪日外国人との多言語コミュニケーションが学生を圧倒しました。顧客へ乗用車を貸すだけでなく、徹底した安全管理や日本の交通ルールを説明した多言語動画など、OTSならではのホスピタリティを垣間見ることができました。

またリザンシーパークホテル谷茶ベイに研修に行った際には、ホテル入口から研修終了の帰りまで、おもてなし尽くしで、研修を受けた学生は宿泊客のように扱われ、ホスピタリティのプロフェッショナルリズムに圧倒されました。更に学生にはホテルランチがふるまわれ、リゾートホテルの雰囲気を楽しんで帰ることができました。

最後のJTAではJTA本社で勤務している社員と現役のキャビンアテンダントが大学へお越しになりました。本学科には航空産業へ就職希望の学生が多いことから、ゲストの講話には緊張感が漂う中、学生は真剣な眼差しでプレゼンテーションを聴いていました。後半の質疑応答の場面では、多くの学生からサービスに対する質問や業務内容に関する質問が飛び交い、教室は盛り上がりを見せていました。

受講生はこの授業で得た貴重な体験を基に、自主的に将来の進路や職業について考えながら、社会へ巣立っていくことでしょう。



リザンシーパークホテル谷茶ベイでのホテルランチ



JTA 現役キャビンアテンダントによる講話

キラ短 英語科から大空をめざせ！

「航空ビジネス入門」では、客員教授である戸崎肇先生が講義を担当され、航空業界に就職するためにはどのような資質が求められるか、多角的に航空ビジネスを理解していく講義を行いました。戸崎先生を中心に航空会社で実際に働いている整備士やキャビンアテンダントにも講義を担ってもらいました。最終日には、那覇空港内の施設をたっぷり半日かけて見学する中身の濃い一日となりました。長さ約15メートルのボーイング737-800型機のモックアップ（実大模型）では、緊急時の訓練で突然客室乗務員の目つきが険しくなり命令口調に変わるなど、印象的な体験ができました。また国内空港でも有数の量の航空貨物を取り扱うという施設で、ベルトコンベアーやリフトが次々と貨物を運搬していく様子を見るのはまさに圧巻でした。航空業界への就職を目指す学生にとって有意義な時間を過ごすことができました。



「エアラインサービス」では、航空業界を目指す50人の学生が履修しました。講師である愛甲香織先生は乗務経験29年、政府要人やVIPフライト乗務、訓練教官といった肩書を持っており、授業では持ち前の温かさでホスピタリティで学生のハートを掴んでいました。この授業の到達目標にはエアラインサービススタッフの業務内容、必要とされる資質を理解すると同時に日常生活の中でマナー、ホスピタリティ、コミュニケーションに関心を持ち実践することを掲げています。授業では実践的なロールプレイやグループワークが多く活用され、ビジネスマナーに関する内容も多く授業内で取り上げられていました。ビジネスマナーは航空業界だけでなく、多くのビジネスシーンで応用できます。そういったビジネスマナーに特化した「G検定」（グローバル人材ビジネス実務検定）を学生に紹介し、検定勉強をしながら正しいビジネスマナーを身につけていく過程にしてほしいと学生に強く語りました。

1月に実施されたG検3級では、受験学生全員が合格しました。



「グローバルな保育」を夢見て本学に入学し、沖縄アミックスインターナショナル幼稚園で幼稚園教育実習を行うことができました。英語が園内の主要言語であり、園児や教師が日常的に英語を使う環境になっています。また、アミックス国際学園の教育理念の中には、「自立」が大きく掲げられ、園児たちは自分たちで考えて活動・遊びを展開し、園行事についてもディスカッションしていく様子が窺えました。

私が実習を行った9月には、月行事として敬老の日になんだ「祖父母のお招き会」がありました。ある日、教師がお招き会でいう出し物についてみんなで話し合いたいと伝え、園児たちは次々と披露したい出し物の案を出しました。ある程度数が出揃うと、教師から「みんなと祖父母と一緒に楽しめる出し物があったらいいね。」という提案が出されました。それを聞いた園児たちは、自分たちがあげた出し物の案が祖父母と共に楽しめるのか、そうでないのかを考え、話し合いを続けました。この光景を参観していた私は、子どもが教師の一言で「自分たち」を中心に考えていたことから「祖父母」に焦点を当て直し考えることができるということに驚きました。常日頃から、園児の意思を尊重し、彼らの人権を守り、園児と教師という縦の繋がりでだけでなく、一個人としての横の繋がりが大切になっているからこそ成し遂げられることなのだと気づきました。

この実習で、英語を教えることがインターナショナルではなく、子ども一人ひとりの権利や意思を尊重すること、子ども自身が選択し行動して行くための環境を構成することなどが本当の意味でのインターナショナルな教育だと学びました。グローバル化に伴い、子どもたちに求められる能力や知識、経験が変化しつつあります。彼らが自分の足で未来を歩いて行けるよう、将来を見据えた保育者になりたいと考えます。

第9回 総合教育系特別公開講座

「事故に合わない考え方～危険って何？何が危険？～」 2019年1月17日

沖縄ウォーターパトロールシステム理事長の音野太志氏を講師にお迎えし、特別公開講座を開催しました。音野先生は、本学の非常勤講師として教鞭をとられ、また水難救助の第一人者でもあられます。

「ジャングルジムで子供を遊ばせる場合、何が危険なのか？」という導入から入り、講師と参加者でレスポンスをしながら、「リスク・マネジメント」について理解を深めていきました。その一つのポイントとして、リスクとは「危険因子」と人が重なって生じるものであり、そのリスクを抱えたまま「アクション」（行動）を起こすと事故が発生する点が挙げられました。このプロセスでは、マリンスポーツや山登り等をする際、事故を未然に防止するために不確実なリスクをしっかりと見極めることが重要になります。それによって、仮に事故が発生しても、結果を最小限に止めることができます。また、講演の中では、図形クイズをとおして、これが全てという固定観念を持たない、新しい発想の視点を身に付ける、時には既存の枠を変えていくことの必要性も説明され、柔軟な発想がリスクの防止に役立つということでした。

肌寒い天候下での開催でしたが、ブレインストーミングをしながらとても有意義な時を共有できました。



入学前教育 4月からの大学生活に備えるため、スクーリングや課題を通して行う学びプログラムです。

● 英語コミュニケーション学科

英語コミュニケーション学科では、AO入学予定者に3回のブリッジプログラムを行います。課題は大きく分けて2つ。一つ目が、英語関連課題で、日々、英文法を中心とした課題にインターネット上で取り組みます。3回の登校時に、Oral Englishの授業を体験し、プレイスメントテストを行います。もう一つが、新聞スクラップ帳の日々の作成です。登校時に、新聞記事を少人数グループ内で発表し議論をし、大学のゼミ体験を行います。

● 英語科

英語科では計3回のブリッジプログラム(Bridge Program:以下 BP)と集中講座を行います。BPの内容は、先輩学生たちからのアドバイス、要約筆記の技術、単位取得、在学留学、TOEICテストの説明などがあります。また集中講座では基礎英語の復習、Oral Englishの心構え、そしてLL教室の使い方を学びます。AO入学予定者は新聞スクラップ帳を作成し、登校時にプレゼンテーションを行います。さらにすべての入学予定者に英語の課題を課して、入学後の学習にスムーズに入れるよう配慮しています。

● 保育科

AO入試合格者のみなさんには、①新聞スクラップの作成、②個人プロジェクトの2つを入学前教育として課しております。①については、記事から自分の意見を書く力や思考力を鍛えるねらいで行っております。②については、自ら課題設定を行い、調査もしくは発表を通して、入学後のスムーズな学びへつながることを想定しています。

また、全合格者向けにブックリストを配布し、入学前に読むことをお勧めしています。学生たちの学びが豊かなものになることを願っております。

大学・短期大学【共催】

学内英語弁論大会



2018年11月10日（土）、第38回目となる学内英語弁論大会が行われました。今年度は短大英語科・保育科と四大英語コミュニケーション学科から計5名の学生が参加しました。保育科の学生がこの弁論大会に参加するのは、過去10年間さかのぼっても記録になく、3学科の学生が募った特別な大会でした。

今年度1位を獲得した保育科2年次の川平真実さんのスピーチは「A Heart Not Fulfilled」で、心の貧困の原因は何か、保育教育者の観点からその原因を分析した内容でした。保育という専門性を活かした内容はとても斬新で、スピーチパフォーマンスも素晴

らしく、聴衆者の心を引き付けていました。次に2位を獲得したのは英語コミュニケーション学科4年次の島袋里穂さんの「The Danger of Making Assumption」でした。憶測や推測で物事を判断するのは危険であるということ、実体験を元に話していました。何か大事な決断をするときは深く物事を考え、習慣や、周りの友人と話しをする必要性があることを訴えていました。3位の英語科2年次の島袋友花さんの「What is ordinary?」では、普通とは何かということと同じく実体験を混ぜながら語っていました。人にはそれぞれ個人差があり、また育った環境や文化が違くと、普通という意味も変化するんだということを語っていました。

今年度も多岐にわたった話題に圧倒されました。全てのスピーカーが、過去の貴重な実体験を振り返り、考えや感情を英語で表現しており、母語である日本語で語るのも難しい内容を、英語でやり遂げた彼らのパフォーマンスには、感動を覚えました。

3人の受賞者たちのスピーチを
Youtubeで視聴することができます。



川平 真実



島袋 里穂



島袋 友花

学内英語弁論大会結果

第1位	川平 真実	保育科(2年)
	A Heart Not Fulfilled	
第2位	島袋 里穂	英語コミュニケーション学科(4年)
	The Danger of Making Assumptions	
第3位	島袋 友花	英語科(2年)
	What is ordinary?	

高校生英語弁論大会

30回目の節目を飾った高校生たち
—The 30th OCU/OCJC English Oratorical Contest for Senior High School Students—

2018年12月8日

今回で30回目の節目を迎えた高校生による英語弁論大会が2018年12月8日に開催されました。緊張感が漂うチャペルでしたが、本学学生の英語による司会進行のもと、本学院大学1期卒業生で、現在中高一貫校で英語教師としてご指導されている山内朝美氏からの激励メッセージが会場の空気を一つにしてくれました。日常生活では英語を使っていない高校生たちが、英語で発表するためにどれだけの準備と練習を費やしてきたか、その堂々とした発表の姿に想像は難くありません。そして高校生一人ひとりの経験から導かれた等身大の問題意識には毎回はっとさせられるものがあります。海外留学の経験や部活動、好きな音楽、家族や自分と向き合うことから、平和や人権、文化やジェンダーの多様性、グローバルな社会問題から死生観にまで気づきを広げた議論は、非常に新鮮でクリエイティブなものばかりでした。これからグローバル社会で活躍する高校生たちにとって、英語で自らの考えを発信したという経験が大きな自信となるでしょう。また、各高校の指導者や一般聴衆も一体となり、これからも地域に開かれた大学としての役割を担っていく意義を再確認することができたと思います。



高校生英語弁論大会結果

第1位	大嶺 杏奈 那覇国際高校・3年	「普通」とは? What Is the "Norm"?
第2位	稲嶺 シアラ 球陽高校・1年	言葉の力 The Power of Words
第3位	金城 初穂 開邦高校・3年	考えの渦 Thought Cycle

Best Impromptu 賞*	中里 真由 沖縄尚学高校・1年	食と私たちの繋がりを Our Relationship with Food
学長賞	田代 涼乃 那覇高校・3年	幸せはこの中に Happiness Lies in This

*Best Impromptu 賞：英語による質疑応答が最も優れていた出場者に贈られる賞

研究助成費獲得による研究活動

公益信託 宇流麻学術研究助成基金

- 沖縄県における幼児期の教育と小学校教育の接続に関する研究
赤嶺 優子 (沖縄キリスト教短期大学 保育科 教授)
- 擬三元系RPd2Si2 (R=Er, Ho) の磁気特性
内間 清晴 (沖縄キリスト教短期大学 総合教育系 教授)

科学研究費助成事業

- 島嶼地域における女性の主体的移動と近現代社会に与えた普遍的インパクトに関する研究 (2018年度～2020年度)
研究分担者：玉城 直美 (沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 准教授) 研究代表者：小川 寿美子 (名城大学)
- オーセンティック・マテリアルの選定方法とそれを利用した効果的な英語教授法の構築 (2017～2019年度)
研究分担者：Christopher Valvona (沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授) 研究代表者：米田 みたか (武庫川女子大学)
- 観光資源として活かすための八重山諸島群の伝統染織物についての研究 (2016～2020年度)
研究分担者：佐久本 邦華 (沖縄キリスト教短期大学 保育科 講師) 研究代表者：又吉 光邦 (沖縄国際大学)

ひらめき☆ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI

- 障害者雇用の重要性和とその課題
近藤 功行 (沖縄キリスト教学院大学 人文学部 英語コミュニケーション学科 教授)

🏠 皆が知っている大学の雰囲気ではなく、すぐくAt Homeな感じで先生との距離や、友だちの距離がすごく近いし、学校生活をめっちゃ楽しめる場所! (英語2年 大城未夢)

🍰 キリ学入って、外国人との関わりがふえました。英語力は自分から進む積極性がないとつきませんが、やる気がある人には必ずチャンスが訪れます。キリ学で受けれるTOEICのTESTは学生に安い値段でとても助かるので学生のうちにどんどんtryしてみたいと思います。 (英コミ2年 yui)

国際交流活動

ハワイ研修・海外幼児教育研修

2019年2月11日～2月25日



25年以上の交流の歴史を有する協定校「ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジ(米国ハワイ州)」を訪問し、ハワイの伝統文化や歴史、自然を学び、現地の人々の温かいホスピタリティに触れつつ、異文化理解を深めるプログラムです。この研修は学科により名称が異なります。英語コミュニケーション学科・英語科の学生が参加する「ハワイ研修」では、英語力の実践の機会とするとともに、空港やリゾートホテル、観光局等を訪問し、ハワイにおける観光ビジネスについて学びます。保育科学生が参加する「海外幼児教育研修」では、幼児教育施設を見学し、これまで学んだ保育の知識・技術を活かし、ハワイの子どもたちと交流します。

参加した学生からは「自分の英語力を試せて良かった。コミュニケーション力がついた」「自らの歴史文化を愛するハワイの人々の心に触れ、私も沖縄の文化を学び、大切にしたいと思った。」などの感想がありました。本研修参加後、ハワイへの関心を深め、長期留学を開始した学生もあり、学生の「世界」を広げるプログラムとなっています。



台湾研修

2018年8月12日～8月25日



(中国語)を学ぶ刺激的な機会ともなっています。「もっと英語と中国語を勉強しようと思った。」「台湾が大好きになった、世界が広がった」「他の国の文化を知ることの面白さや、日本の文化を伝えられたときの達成感が得られた。また、もっと沖縄のことについて勉強し、いろいろなことを相手に伝えることができるコミュニケーション能力を身につけたいと思った」など、参加した学生たちから多くの感想が寄せられ、大変充実した研修となりました。



ハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジより、学長ご一行がご来学

(米国ハワイ州以下KCC)

2018年9月11日

KCCよりヘレン・コックス学長と、ブライアン・山本教授がご来学になりました。

ご退任予定のコックス学長を伊波美智子理事長が迎え、感謝の記念品を贈呈し、多くの教職員と和やかな交流のときがもたれました。

その後は沖縄の世界遺産のひとつ「中城城跡」へご案内しました。最後には、会食をしながら懇談のを持ち、教育に係る議論が展開されました。

コックス学長より、「本当に充実した一日でした。心より感謝を申し上げます」とのおことばを頂戴しました。



ix 国際交流友の会の活動

沖縄の歴史・文化学習会

2018年7月7日



本学習会は、地元にいると意外と行かない県内史跡等を訪問し、沖縄の歴史や文化を再発見することを目的としています。また、「沖縄特例通訳案内士」資格のあるスタッフが、史跡等の説明はもちろん、通訳ガイドとしての心得も同時に紹介します。当日は、晴天のもと、外国人留学生も含め、総勢14人の学生の参加がありました。午前是中国との交流に由来する「福州園」等を訪問しました。中華料理店での昼食をはさみ、午後は首里城公園を訪れ、「首里城跡」等の世界遺産を中心に見学しました。



👉 キリ短の保育科は先生達がとても親切で優しいから、何か困った事があればすぐ先生に相談できると思います。実習も多くて大変な事もあるけど、実習前や後に皆で話をする機会も沢山あるから、そこもキリ短の良い所だと思います。 (保育2年 みゆむさ)

★ 少人数制なので分からない所があっても聞きやすいしオールではみんな仲良しだから毎日楽しく学校生活が送れている。英語の力も入学時に比べたらけっこうのびている。バイト先とかで外人さんとしゃべっても物おじせず話せる。 (英語2年)

キャリア支援

就職関連

進路セミナー

2018年6月5日

全学科1年次を対象に、「進路セミナー」を6月に開催しました。

進路セミナーはキャリア支援課、学生課、国際平和文化交流センターが主催し、学生自身が大学4年間、短大2年間の学生生活をロードマップで確認しながら、就職や進学、留学などの進路について考えるプログラムです。

学科別のプログラムでは、卒業生を迎えた「OB・OG/パネルディスカッション」を実施しました。社会人としてキャリアを積んだ卒業生より、仕事の魅力ややりがいについて、また学生時代の学びが現在の仕事に繋がるなどの話を伝えていただき、学生は将来の進路について幅広く考える良い機会となりました。



就活体験☆合宿

2018年12月1日・2日

四大3年次、短大1年次を対象に、1泊2日の「就活体験☆合宿」を12月に開催しました。

この合宿は、就職活動や選考過程で行われる説明会、エントリーシート・履歴書作成、集団面接、筆記試験、グループワーク、グループディスカッション等をダイジェストで体験するプログラムとなっており、毎年好評を得ているイベントです。就職活動に関する情報や事前準備の大切さを知り、3月以降の就職活動について具体的にイメージできる内容で、学生28人が参加しました。

業界研究では、県内各業界を代表する企業をお招きし、航空業界・旅行業界・金融業界・ホテル業界について説明をいただき、学生は各業界への理解を深め、興味の対象、視野を広げることができました。

一連のプログラムを終了した学生からは、「大変満足した」「就職活動に臨む際の心構えを学んだ」などの声が聞かれました。

キャリア&アカデミックプランニング講座

2018年10月25日



四大3年次全員を対象に、就職活動と学修の両立を目指し「キャリア&アカデミック プランニング講座」を開催しました。卒業後の社会的・職業的自立に必要な能力を在学中に育むための気づきとなる講座として、キャリア支援課と英語コミュニケーション学科が共同で企画しました。

在学中から卒業後までの「キャリアプラン表」を作成し、学生が主体的に、かつ長期的視点で目標や計画を立てるワークを行い、就職活動については卒業研究スケジュールと重ねた流れを確認しました。また「社会人基礎力」を参考に、社会で求められる能力について考える機会となりました。

4年次(就職内定学生)によるパネルディスカッションでは、先輩からの「何かを言い訳にして逃げるな!!」と厳しく語る一方、「キリ学のOral Communicationは、留学に匹敵する」と目標を設定し最後までやり遂げることが大事と話す二人の話は、3年次学生にとって大きなヒントになりました。

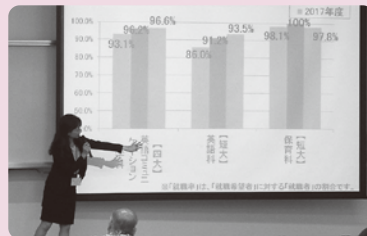


保護者向け就職活動セミナー

2018年11月10日

四大1～3年次、短大1年次の保護者の皆さまを対象にした「保護者向け就職活動セミナー」を、キリ学祭中の11月10日(土)に開催しました。

これから就職活動を迎える学生の保護者の皆さまに、現在の就職活動の実態を把握していただくため、大学の就職支援の



内容や就職状況、就活スケジュールの流れ、企業の採用動向、保護者の皆さまからのサポート等についての説明と、併せて就職内定学生の就活体験報告を行いました。

T cafe

2018年10月23日

キャリア支援課では、スタッフ主催の少人数向け就職ガイダンス「T cafe」(Talk of the T)を適宜開催しています。学内のcafeラウンジを活用し、リラックスした雰囲気の中、就職活動の準備に取り組む学生を支援しています。

2018年度は、「業界研究講座」「エントリーシート(履歴書)対策講座」「筆記試験体験」「キリ学・キリ短生の英語力&コミュニケーション力を活かせる業界とは?」「内定者の話を聞こう」など、全30回開催(2019年1月現在)し、学生の要望に応える企画となりました。



2018年度 主な図書館行事

多くの学生が図書館へ足を運んでくれることを期待して、2018年度も様々な図書館イベントを開催しました。

- | | | | |
|----|--------------------------------------|-----|--|
| 4月 | ●「知りたいことがここにある。」(春のキャリア関連図書フェア) | 10月 | ●聖書展示 |
| | ●図書館ツアー(フレッシュマンセミナー等とのタイアップセミナー) | | ●「自分を魅せる。知識を育てる。」(秋のキャリア&留学図書フェア) |
| 5月 | ●文献検索セミナー(上級編 4年ゼミ) | | ●「エアライン業界について」(業界研究講座 T-café in 図書館①) |
| | ●「学生時代に読みたい一冊」～自分の視野を広げてみよう～(新1年次対象) | | ●留学セミナー(平和文化交流センターからの出張編) |
| | ●絵本フェア(絵本特集) | 11月 | ●「キリ学・キリ短生の英語力&コミュニケーション力とは?」(業界研究講座 T-café in 図書館②) |
| | ●絵本読み聞かせ講座(保育科学生対象) | | ●ビブリオバトル |
| 6月 | ●文献検索セミナー(基礎編 英語科1年次 フレッシュマンセミナー) | 12月 | ●クリスマス絵本展 |
| | ●文献検索セミナー(初級編 3年ゼミ) | 1月 | ●「原作でふり返る映画・ドラマ特集～2018～」(ミニ図書フェア) |
| | ●「慰霊の日」平和関連図書展示 | | ●「うちなーの黄金言葉(くがにくとぅば)」(図書館講演会) |
| 7月 | ●同時通訳関連図書/日英翻訳本展示 | | |
| | ●「夏、本を読む。人生に味がでる。」(夏の小説フェア) | | |

図書フェア・イベント・セミナー



ビブリオバトル

日時/2018年11月29日(木)
16:30～17:30
場所/図書館1F ロビー

本と出会える場を作りたいとの思いから、図書館ロビーを会場に、「第4回 図書館主催ビブリオバトル」を開催しました。予選を勝ち抜いた4人のバトルは、緊張しながらも各々5分間の熱いプレゼンテーションを終え、会場からの質問に本の内容や自身の体験等を織り交ぜながら答えるという形式で会は進んでいきました。「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票。集計中には聖歌隊のクリスマスキャロルで心を癒され、その後すぐに発表が行われました。今年のチャンプ本は、英語コミュニケーション学科3年次の伊佐エリカさんが紹介した『ハッピーバースデー』(青木和雄、吉富多美[著])に決定しました。今回紹介された本は、全てにバトルのコメントを付け、図書館ロビーに展示し、貸出しがスムーズに行われるようにしました。



絵本読み聞かせ講座

日時/2018年5月11日(金) 10:40～12:10
演題/「絵本読み聞かせ講座」
講師/平良京子氏 沖縄県子どもの本研究会 会長・繁多川図書館 館長
場所/シャローム会館 1-1教室

関連図書展示/2018年5月1日(火)～6月30日(土)

実践に役立つ技能習得を目指して、保育所実習Iの前に「絵本読み聞かせ講座」を開催し、保育科2年次と保育科教員を中心に約60人の受講生が集まりました。

講師は、昨年に続き繁多川図書館館長の平良京子先生にお願いしました。プログラム前半では、絵本を読む前の「導入の手法」として、手



遊びやわらべ歌などが紹介され、実践しました。学生達の緊張もほぐされ、全員参加のスタイルで講座は進められていき、笑顔の絶えない講義となりました。また、子どもの発達段階に合わせた絵本選び、絵本の持ち方や声の出し方など様々な角度から丁寧に紹介していただき、熱心にメモを取りながら受講する姿が見られました。

後半は参加者全員での実技演習。4～5人のグループに分かれ、学んだことを活かしつつ読み聞かせの実践を行いました。限られた時間内でしたが、講師からアドバイスを受けながらの充実した内容となりました。学生からは「ロングセラーや愛され続ける絵本の持つパワー、そして手遊び等で子どもの集中力を引き付けるテクニックが学べ、とても良かったです。」「読み聞かせの大切さ、組み立て方に刺激を受けました。今までなんとなく読み聞かせを行ってききましたが、「読み手・聞き手共に楽しく」というお話に感銘を受けました。」など多くの感想が寄せられ、読み聞かせの奥深さを体験した多くの学生から、第二弾の講座開催について希望の声上がるほどでした。



聖書展示

10月31日の宗教改革記念日に合わせ、所蔵している47カ国語で出版された「聖書」を展示しました。書架に配架されているだけでは手に取ることのなかったラテン語や欧州、東南アジアの国々の聖書と言語に触れる機会としました。



図書館講演会

日時/2019年1月26日(土) 13:30～15:00
演題/「うちなーの黄金言葉(くがにくとぅば)」
講師/座間味宗治氏 沖縄県沖縄語普及協議会 前会長・臨床心理士
場所/シャローム会館 1-1教室

関連図書展示/2019年1月4日(金)～1月28日(月)



2018年度図書館講演会は、講演者に沖縄県沖縄語普及協議会の前会長で、臨床心理士の座間味宗治氏をお招きし、「しまくとぅばは沖縄のアイデンティティ」をキーワードにご講話いただきました。

沖縄のチムグクルを代表する言葉の「出会えば兄弟(イチャリバ チョーデー)」や「世間は互いにちゅい助け助け(シキンヤ タゲーニ チュイタシキダシキ)」等 温かみのある言葉について取上げていただき、沖縄の精神文化、アイデンティティについて深く考える時を持つことができました。



英語の話を人がまわりにたくさんいて、刺激をもらえたこと。ゼミに入ってから、就職にいかせるようにがんばる。(英コミ2年)



確実に英語力は身に付くと思う。生徒1人1人を大切にしている大学。直美さんの講義はめっちゃおもしろいです。(英コミ3年 仲間和希)

✧キリ短に入ってから、夢を叶えるために子どものことをよりくわしく知ることができた。2年間の中で、自分の夢が広がった。保育に必要な知識と技術を身につけることができた。(保育2年 あーい)



教職を取っている2年次のりかきです。英語力を高めるため、夏季講座と呼ばれる集中して同時通訳の勉強を毎年受けています。いつも頑張っている友達を見て毎日刺激を受けています。ぜひ教職を取って下さい。(英コミ2年 富倉場里香)

2018年度 前後期学内奨学金授与式

前期奨学金は、四大29人、短大28人の計57人が採用されました。奨学生を代表し、英語コミュニケーション学科1年次の古堅怜奈さんが挨拶いたしました。後期奨学金では四大26人、短大19人の計45人が採用され、英語コミュニケーション学科3年次の根間広人さんが奨学生を代表しウチナーグチを駆使した挨拶で授与式をなごませてくれました。特に後期奨学金は本学の後援会・同窓会をはじめとして、県内各企業、個人の皆様からのご支援によるものです。ご寄付いただきました皆様に心から感謝申し上げますとともに今後ともよろしくお願いします。



English Lunch Table

英語系

2009年より開催されているEnglish Lunch Table は、英語系の学生に人気のあるプログラムです。毎週5人から20人の学生が、5人前後の英語教員とシャロームのカフェラウンジで一緒に昼食をとります。奨学生が教員と交流するとともに良い機会であり、授業の外でリラックスした環境でお互いを知る機会となっています。また学生が授業の質問や宿題などのことを聞いたり、海外の文化のことについて学んだり、また雑談をしたりと、このプログラムを活用しています。



保育を学びながら英語も学べる!

保育科

2018年11月より、保育科学生のためのEnglish Lunch Tabelを開始しました。英語科のネイティブ教員と楽しいおしゃべりを通して、簡単な日常英会話が身につきます。英語と保育のキリ短ならではの、学科を超えた交流です。海外幼児教育研修に行きたい学生は、どうぞ気楽に参加してください。

学習支援センター紹介

チューター制度導入

学習支援センター(LSC)は、2018年度よりチュータリングサービスを開始しました。英検準1級レベルのキリ学・キリ短生の6人でスタートし、後期には英語担当4人、ピアノ担当1人が加わり、全学科にサポートする体制が整いました。センター員を含めたミーティングでは、支援や広報、ICTの活用などについてディスカッションし、互いに学び合いを深めています。平日(月～金)の午後にはセンター員と学生チューターが常駐しています。サポートは予約制ですが、タイミング次第では、その場でサポートを受ける事もできます。学生は一人ひとりが異なる目標とニーズを持っています。LSCは、そんな学生の学習成果(ゴール)の実現へ向けて力強くバックアップします。

「第2回アジケイコンペ」W受賞! 2019年1月19日

県アジア経済戦略課主催「第2回アジケイコンペ」で本学英語コミュニケーション学科から出場したチーム



上地教授(中央)を囲んで

「マーミン」がグランプリを、チーム「ちゅらびなー」が準グランプリを受賞しました。チームマーミンは、『インバウンドのお客様が沖縄に観光に来た際にかまぼこを食べてくれるには?』を課題にフードトラックで観光地へ届けるビジネスモデルを提案。おやつのように手軽に、インスタ映える「マーミヤ坊」の商品開発を提案し、「沖縄からアジア、世界へ知られていくことが期待されます」と商品への自信を述べました。チームちゅらびなーは、『沖縄アウトレットモール あしびなーへ来場される外国人観光客に向けた「コト消費」から「トキ消費」の場の提案』。あしびなーの施設内にパウダールーム設置やキャラクターの活用を提案したのが評価されました。

コンペは、14チームの応募の中から本選へと進んだ8チームで行われました。グランプリには、賞状と3泊4日の香港・マカオ研修旅行が、準グランプリには、賞状とホテルウォッチングのツアー券が贈られました。

★本コンペの様子は2019年2月3日、RBC琉球放送で紹介されました。

特別講義「大学生と知事との対話」 2019年1月31日

グローバル・スタディーコース群特別講義に玉城デニー知事が講師として登壇しました。
“ドン、ドン、パツ!”...“We will we will rock you!”
入場曲はQueenの「We Will Rock You」
160人の手拍子足拍子が重なっていく中、知事が入場する扉が開きました。学生たちが、知事をどのような形で迎えるのがよいのか考えぬいた曲とパフォーマンスです。学生の歓待を喜びながら知事の講話が始まり、経済的には厳しくも、シングルマザーをはじめとして地域の方々に助けられ、愛されて育った幼少時代が今につながっているようです。青年期には音楽好きが高じてラジオDJになり、その後タレントから、沖縄の今、未来を政治的視点で考えるようになった経緯を熱く話されました。その後、次々に寄せられる学生の質問に、丁寧に言葉を大切にしながらお話しされ、うちなーぐちを学ぶ学生からのうちなーぐちでの質問には、知事もうちなーぐちと大和口(日本語)の両方で答える様子も見られました。最後は、学生による三線の生演奏、カチャーシータイムでは、唐船ドイが響く中、会場一体となって知事との対話を終えました。最後まで学生が考え、知事と共に作り上げた時間は、貴重な時間となりました。



学生学び合い — 平和学習 —

2018年8月20日～8月23日

2018年8月20日から23日までの4日間、本学を会場に「第6回キリスト教を土台として 沖縄・長崎・広島から平和を考える学び合い」が開催されました。これは沖縄、長崎、広島それぞれの地における平和学習の取り組みを紹介し、互いに学び合おうという趣旨で始まったものです。

今回は地元である西原町のご協力で現地研修のためにマイクロバスを提供していただきました。沖縄国際大学、沖縄大学、西南学院大学、広島女学院大学、国際基督教大学、そして本学からと県内外の大学から参加した学生たちは、互いに学び合う良い機会を共有しました。また、プログラムの中でYWCA(基督教女子青年会)のユース部門が、ワークショップ「憲法カフェ」を開き、参加者が現地研修や講演を通して感じたこと、学んだことを分かち合うグループワークのひとつとして、アジア諸国の憲法の精神に触れることができました。

夕食交流会のバーベキューには本学の卒業生も参加し、ここで出会い学び合ったつながりが卒業後も続いていることにこの会も歴史を積み上げてきたことを感じます。県内外の学生が集い、互いの学びを共有し、それぞれの地から平和を創っていくことを確かめ合うことができるこの学び合いに、今後も多くの学生が参加してほしいと思います。



嘉数高台にて 普天間基地問題について学ぶ



チビチリガマの説明を受ける



学生による発表



夕食交流会

TEAM琉球の活動 — 石垣島ピースツアー —

2019年2月26日～3月1日



登野城小学校敷地内にある奉安殿跡



八重山戦争マラリア犠牲者慰霊の碑、前で

当研究所には学生活動として「TEAM琉球」が位置づけられています。平和のことを学び県外からの修学旅行生をガイドするなど平和教育の発信にも力を入れています。毎年、春休みには宿泊研修を行っており、これまで伊江島、宮古島、石垣島での学びを積んできました。特に今年の研修は石垣島で行なわれ(2019年2月26日～3月1日)、沖縄本島とは異なる八重山での沖縄戦、戦争マラリア、戦後の開拓団入植、自衛隊ミサイル基地建設問題など、多くのことに目を開かれてきました。またそれとは対照的な美しい自然をたっぷり味わうこともできました。

「自分たちが生まれ育った沖縄だからこそもっと深く知りたい。」そんな思いを持って学生たちが集ってきます。当研究所には図書館にはない書籍や資料もあり、学生たちはそれらを利用しながら自らの学習に役立てています。また、時には研究所の先生方とランチミーティングを開き、交流を深めています。



宮古島からの開拓団入植記念碑

特別講演会

2018年6月24日

当研究所では、定期的開催している連続講座の他に、年に1回の特別講演会を開催しています。今回は東京ビサイドチャーチの牧師であり特定秘密保護法に反対する牧師の会共同代表でもある安海和宣氏を講師に招き「平和をつくる者として～戦争被害者・加害者 ふたつの視線で今を見る～」を講演していただきました。安海氏は中学時代までをインドネシアで過ごし、そこでは過去に日本軍による住民虐殺(ポンティアナック事件)があったことや、安海氏が米国留学時に起きた米国同時多発テロと、その後の米国の状況についても話してくださいました。平和破壊の極みである戦争や、人々の生活が脅かされる状況を目の前にしたとき、我々が平和をつくることへの使命とは何かを問いかけられました。



安海和宣氏

キリ学は、英語での授業にとっても「力」を入れているので、明らかに身についているのが目に見えます。そこが頑張れるポイントであり、良い所である! (英コミ2年 大嶺華蓮)

先生方も購買のお姉さん方も喋りやすく毎日学校に来たくなる!ネイティブの先生もたくさんいて、英語力アップ間違いなし。この学校ならではの行事も楽しみの1つです。(英語2年 比嘉みなみ)

地域貢献

同時通訳集中講座

・2018年8月4日～8月11日

通算26回目を迎えた本講座では、主任講師の宮田耀彰先生と本学講師陣(柳田正豪、David A. Ulvog、城間仙子)に加え、外部講師として玉城弘子先生(フリーランス通訳者)、宮国薫子先生(琉球大学国際地域創造学部准教授)、比嘉麻莉奈先生(本学非常勤講師)にも授業をご担当いただき、幅広く豊かな内容の講座実現にご協力をいただきました。

今年度の特別講演は、英語科 Michael Bradley教授に「アイルランドの反戦活動家たち～巨大な兵器製造産業に戦いを挑んだ物語～」と題し、自らが制作に関わったラジオ・ドキュメンタリー番組「The Occupation」について語っていただきました。北アイルランドで、少人数の反戦活動家が地元の都市デリーから多国籍兵器製造企業 Raytheon 社を撤退するまでに追い込んだ事実を興味深く聞くことができました。併せて上級クラス、初級クラスの受講生が同時通訳ブースに入り、果敢に同時通訳に挑戦しました。

今年も無事予定通りに8日間の日程を終えることができました。関係者の皆様の多大なご協力に感謝申し上げます。



ワイワイプラザ in キリ短

2018年度も「ワイワイプラザ in キリ短」を開催することが出来ました。このイベントは、保育科の地域子育て支援実習の一環で行っており、保育科の1、2年生が協同して創り上げています。今年度は、10月6日、13日、27日、12月15日の計4回開催しました。

本プログラムは、子育ての孤立化、子どもの多様な人との関わりの減少等の子育て家庭を取り巻く今日的課題に基づいて、地域の子育て・子育て支援を展開することを目的としています。10月6日のプログラムには近隣市町村より、約100名の親子と祖父母の皆様にご来場していただきました。運動遊びの「ピンボールランナー」、もぐらたたき、プラバンや片栗粉等を使った制作遊びの他、ペープサートや迷路、スタンプラリーもあり、学生が講義で学んだことに独自のアイデアを加えた楽しい親子遊びが実施されました。終始明るい雰囲気、子どもたちや保護者の方々の素敵な笑顔をたくさん見る事が出来ました。



運動遊び会場の様子



新聞紙遊び



射的ゲーム



もぐらたたき

西原町×キリ学 まち歩き



アクションリサーチの授業を通して、西原町のまち歩きを行い、その後、棚原地区の文化や歴史等を学び、西原町の良さをPRする地図作りを行いました。7月16日(月)、西原町教育委員会の協力の下、西原歴史の会より長嶺一男さんと漢那令子さんにガイドして頂き、貴重なお話を拝聴いたしました。学生27人と共に、昔道と呼ばれる歴史文化財の遺跡を巡りながら昔の人々の営みを学び、琉球王府時代に作られた石畳道路を歩いて回りました。公民館で行われる「ミルク加奈志」仮面の奉納や、それに伴う伝統行事が琉球王国時代から続いていることに感激しました。本プログラムは、西原町と本学の地域包括連携の一環として取り組んでいます。



理科教育支援事業

「子どもの理科(科学)離れ」といわれ久しくなりますが、小学校高学年になるにつれてそれが顕著に現れてきます。ある報告書によると、その要因として、(1)「小学校教員の6割以上が、理科の授業が苦手である。」(2)「小学校教員は多忙を極めていて、事前準備が不可欠な実験などが十分に行えていない。」(3)「地域・社会との連携不足である。」等とありました。

私は高校教師であった経験から、小学校現場の先生が超多忙で、理科教材(特に実験・観察)準備を満足に行えない状況であることが容易に理解でき、上記の(1)～(3)に関して、地域の小学校での課題でもあることから、本事業を2009年にスタートし、今年で10年になりました。これまでに720コマ(1コマ45分)の支援授業を行ってきました。小学校や教育委員会の先生方との「理科好きな児童を1人でも多く増やしたい」という共通の目標と強い信頼関係があったからこそ10年間も本事業を継続することができました。去った全国学力テストにおいても西原地区小学校の理科の平均テストは県や全国平均を上回り、何よりも児童達の学習意欲が高まったと高い評価を受けています。本事業を通して、児童達が自然科学現象に興味・関心を持ち、知的好奇心を高め、論理的思考力をつけていく上でも、理科が楽しいと思う支援事業を継続していきたいと思っています。

理科教育支援委員長 内間 清晴 教授



生涯学習を目指す方々のために！！

本学院は、生涯学習を目指す方々のために、大学施設を開放し、身近に学習の場を提供するため、前期・後期の2期にわたり公開講座を実施しております。受講生も10代から60代と幅広く、どなたでも気軽に受講でき楽しみながら学べる講座の内容となっております。公開講座をとおして、地域・社会における教育文化の向上に資することと併せて、これからも地域・社会のニーズに応えていきます。概要については、公式ウェブサイトに掲載します。興味のある講座に奮ってご参加ください。

連続講座

戦後の沖縄における教会の歩みと回顧 ー苦難の中での平和の願いー

沖縄戦が終わったあと、廃墟の中から人々が立ち上がっていくためにどのような苦労があり、希望があったのかをキリスト教の歩みを振り返ることで辿ります。地域や教会の皆様に向けて当研究所で実施してきた本講座は、今年で第Ⅶシリーズとなりました。

第Ⅶ-1回 2018年7月24日

「青木恵哉と愛楽園ー「選ばれた島」の物語ー」

講師：森川 恭剛 氏(琉球大学人文社会学部教授)

沖縄県ハンセン病証言集の編集や、沖縄愛楽園交流会館歴史資料室の展示作成に関わられた森川恭剛氏に、国立療養所沖縄愛楽園とその創設に尽くされた青木恵哉氏について話していただきました。



第Ⅶ-2回 2018年9月18日

「沖縄・宮古・八重山における米軍による軍事占領と教会」

講師：一色 哲 氏(帝京大学教授)

近代以降の南島地域のキリスト教史を研究されている一色哲氏から、戦後の軍事占領下において、沖縄の復興を目指した教会や人々の姿など、キリスト教の立場からの沖縄戦後史について幅広くうかがうことができました。



キリ短の保育に入って、自分のやりたい保育が明確になりました。また、実習を積み重ねることに保育者としての自覚が身に付きました。4月から現場に出るのが楽しみです。(保育2年 YUSU)

学内にカフェがあるので毎日コーヒーが飲めますよ！(英コミ1年 喜友名咲苗)

ネイティブの先生と気軽に会話できるところが好きー!! (英コミ3年 佐藤美津紀)

先生達も皆個性的で、とっても優しい!授業も楽しいし、友達も皆面白くて学校、まじ楽しいし、最高だよ♥学校にいたいって思える学校だよ。毎日充実してる。体育の授業は、本気だし、楽しめてまじ、最高。毎日一緒にいてもあきないよね。皆、LOVE♥これからもLOVEみ。(保育1年 リリリリイー)

退職教員メッセージ

教養教育の意義を学んだ15年間

沖縄キリスト教短期大学
総合教育系教授

青野 和彦



この3月で沖縄キリスト教短期大学を退任し、4月から東京都内の私立大学で教鞭を取るようになりました。在職中は学生、教職員、関係者各位に大変お世話になり、感謝申し上げます。

沖縄での15年間、たくさん歩き、たくさん思索し、たくさん学びました。本学では総合教育系に所属し、教養教育のマネジメントを主に担当させて頂きました。それに携わる中で、教養教育の役割とは何か？という問いを考えてきました。西洋では教養教育の歴史は古くギリシャ時代に遡り、中世期の大学でそれは哲学や神学の基礎課程とされました。現代では教養教育には様々な定義があります。事象や問題を様々な角度から見つめ、時には思考のフレームを変え、自由に発想していく。それによって解決手段を模索する。学習者にそのための「技」(arts)を習得させるのが教養教育であると言えます。さらに、教養教育は人間に良心を示し、人間の価値と尊厳を自覚させる役割も持つものだと考えています。今後、AIに代表される科学テクノロジーの飛躍的發展に伴い生活が便利になる反面、非人間化も進むかもしれません。このように人間社会がデジタル化されていく状況にあって、教養教育はますます意義をもつものと確信します。

今後も、本学が学生の教養基礎力を養成し続け、ますます発展されることを祈念いたします。

採用教員メッセージ

若者の夢や希望に出会う喜び



沖縄キリスト教短期大学
保育科特任教授

山盛 淳子

「先生、合格しました。」「就職決まりましたー。」笑顔の報告。苦しかった保育実習を乗り越え手中に収めた夢。また、「私に保育士ができるかな。と就職することに不安があります。」「初めから自信のある人はいないよ。だんだんその器になるのよ。」と不安を持っている学生に人生の先輩としてのいるな話をする機会もできました。

本年度、アドバイザーとして、あるいは、実習先訪問指導で学生と授業以外にも関わりがあったおかげで、若者が社会人として一歩踏み出す場に居合わせることができました。超一流の保育士育成を目指す本学で勤務できることに誇りを持ち、若者の夢実現に一役担っていることを自負し、健康に留意して邁進いたします。

Let's play together



沖縄キリスト教短期大学
保育科特任講師

島袋 桂

みんなでからだを動かすと、不思議と笑顔がいっぱいになります。今年度も保育科のみんなのパワーも借りながら、毎回楽しく授業をさせてもらいました。「幼児体育」では、学生のアイデアと、圧倒的な明るさから私も多くのことを学ばせてもらったと思っています。「体育」と聞くと、出来るか出来ないか、上手いか下手かが重視されそうですが、子どもの運動遊びではみんなが主役です。幼児の心を取り戻して、めいいっぱいからだを動かす学生の姿からは、これから現場に出て、子どもたちの笑顔と「運動が大好き」な心を育てられるのではないかと期待しています。

これからも一緒にからだを動かすことで紡がれる絆を大切にしながら、ともに成長していけたらと思います。

「先生、それは違います。」 ～教員1年生の学び～



沖縄キリスト教短期大学
保育科講師

宮平 隆央

「先生、それは違います。」

これは学生のコメントペーパーから寄せられたひとことでした。ちょっぴりムカッ!としつつも、自分の感じた違和感に率直な学生のことばに、伝える・学ぶことの重みを考えさせられるひとことでもありました。そして、自分のことばを持つ学生を頼もしく思いました。

この1年、学生のみなさんが様々な思いを持ちながら、学び、友人と関わり、悩み、楽しみ、それぞれ懸命に過ごす姿は「さて、先生はどうですか?」問い続けられているようでもありました。

「学生に伝えるべきことを学生から学ぶ」

それを学んだ教員1年生でした。学生・教職員の皆様、今後ともどうぞよろしくお付き合いください。

音楽を通して平和をつくりだす人に



沖縄キリスト教短期大学
保育科助教

仲松 あかり

はじめまして。保育科で音楽の科目を主に担当しています、仲松あかりと申します。

音楽は、平和をつくりだすもので、世界共通でもあり、子どもの教育にもなくてはならないものだと思います。個人的な話しになりますが、私の祖父は本学の創設者である仲里朝章先生の教え子で、先生を尊敬しており、再び戦争を起こしてはならないと常々語っていました。戦争を知る多くの先人が召され、音楽などの芸術が教育現場から減らされようとしている昨今に、危機感を覚えます。そのような中で本学の建学の精神を改めて肝に銘じ、音楽を通して平和をつくりだす人となり、学生と共に成長できるよう精進していきたいと思っています。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

寄付感謝報告

寄付指定（2018年1月1日～12月31日まで）

寄付へのご協力ありがとうございました。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

個人(306件/¥5,479,000) 団体(38件/¥18,209,785) 合計(344件/¥23,688,785)

施設設備資金		
団体	1	150,000
宗教(個)	1	3,000
宗教団体	1	10,000
教職員(個)	2	30,000
後援会	1	2,915,000
合計	6	3,108,000

奨学金		
企業	8	780,000
団体	2	150,000
宗教団体	3	300,000
学校関係者(個)	1	10,000
教職員(個)	28	1,470,000
同窓会	1	600,000
後援会	1	3,010,000
合計	44	6,320,000

60周年記念募金奨学金		
聴/生/生(個)	113	1,066,000
一般(個)	7	36,000
企業	1	100,000
団体	2	86,595
宗教(個)	6	36,000
宗教団体	8	1,190,000
学校関係者(個)	13	1,420,000
教職員(個)	128	1,283,000
合計	278	5,217,595

学生会活動援助費		
同窓会	1	300,000
後援会	1	200,000
合計	2	500,000

その他		
団体	2	5,303,190
学校関係者(個)	1	10,000
教職員(個)	4	60,000
合計	7	5,373,190

沖縄キリスト教平和研究所		
宗教(個)	1	50,000
合計	1	50,000

教育活動		
団体	1	50,000
宗教団体	3	65,000
教職員(個)	1	5,000
後援会	1	3,000,000
合計	6	3,120,000

2018年度人事

●教育管理職

2018年4月1日付

【任期：2020年3月31日まで】

新垣 誠 人文学部長(異文化コミュニケーション学研究科長兼任)(再任)
青野 和彦 短期大学部長(総合教育系主任兼任)
金 永秀 宗教部長(再任)
上原 明子 教学支援部長
城間 仙子 学生支援部長(国際平和文化交流センター長兼任)
内間 清晴 図書館長(沖縄キリスト教平和総合研究所長兼任)
浜川 仁 学習支援センター長

●沖縄キリスト教学院大学

2018年4月1日付

【昇任】
城間 仙子 教授(准教授)
新垣 友子 教授(准教授)
玉城 直美 准教授(講師)

●沖縄キリスト教短期大学

2018年4月1日付

【採用】
山盛 淳子 保育科特任教授
宮平 隆央 保育科講師
島袋 桂 保育科特任講師
仲松あかり 保育科助教
【昇任】
大城 りえ 保育科教授(准教授)
赤嶺 優子 保育科教授(准教授)
糸洲 理子 保育科准教授(講師)
【異動】
上原 明子 英語科教授(総合教育系)
浜川 仁 英語科教授(英語コミュニケーション学科)

2019年3月31日付

【退職】
青野和彦 総合教育系教授
島袋 桂 保育科特任講師

●事務職員

2018年4月1日付

【採用】
加藤 幸 総務課書記

【昇任】

與那原 馨 事務局長(事務局長代行)
真栄田美奈 教務課長(キャリア支援課長代行)

【異動】

金城 繁正 入試課長(学生課長)
金城 雄彦 学習支援課長(情報センター課長)
多根 宏治 学生課長(入試課長)
仲間 末美 キャリア支援課長(図書課長)
渡慶次智子 図書課長(教務課長)

2018年4月25日付

【異動】
加藤 幸 図書課書記(総務課)

2018年11月1日付

【異動】
加藤 幸 教務課書記(図書課)

2019年1月1日付

【兼務】
與那原 馨 事務局長兼企画推進課長(事務局長)

【退職】

2018年12月31日付
友利 道明 企画推進課長
2019年3月31日付
東江 幹夫 総務課主任

2017年度決算報告

2017年4月1日から2018年3月31日まで

資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科 目	決算額	科 目	決算額
学生生徒等納付金収入	707,072	人件費支出	556,125
手数料収入	16,702	教育研究経費支出	174,198
寄付金収入	16,084	管理経費支出	45,472
補助金収入	124,753	借入金等利息支出	775
資産売却収入	0	借入金等返済支出	36,000
付随事業・収益事業収入	6,094	施設関係支出	10,122
受取利息・配当金収入	4,201	設備関係支出	17,344
雑収入	14,036	資産運用支出	65,000
借入金等収入	0	その他の支出	19,934
前受金収入	351,296		
その他の収入	3,695		
資金収入調整勘定	△ 361,115	資金支出調整勘定	△ 22,313
前年度繰越支払資金	1,134,514	翌年度繰越支払資金	1,114,675
収入の部合計	2,017,331	支出の部合計	2,017,331

貸借対照表

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	3,317,482	固定負債	229,739
有形固定資産	2,532,347	流動負債	418,889
特定資産	781,000	負債の部合計	648,628
その他の固定資産	4,135	純資産の部	
流動資産	1,123,026	科 目	本年度末
		基本金	4,417,952
		繰越収支差額	△ 626,072
		純資産の部合計	3,791,880
資産の部合計	4,440,509	負債及び純資産の部合計	4,440,509

★ Oralの授業がとても楽しいし、英語が一番伸びると思います。(英コミ2年 赤嶺青海)

★ キリ学は、他の大学よりも子どもがいる生徒にとても優しい大学だと思います。先生によっては子ども連れて一緒に授業をうけてもOKで、とても助かりました♡(英コミ3年 Mado)

★ キリ短の保育科に入学生して、同じ夢を追いかけている人たちと出会えたこと。そして、その夢に向かって一緒に頑張れること。難しい課題もたいへんなことたくさんあるけど、その分、一緒に乗り越えた時の達成感や喜びが大きくて、とても毎日が充実しています。出会いに感謝!!(保育1年 T.S)

★ 入ってよかったことは、先生と生徒の距離が近いことと、生徒同士も仲が良い方だということ。沖縄県内の他の大学に比べるとアットホーム感が一番あると思う。(英コミ2年)

オープンキャンパス

Open Campus 2019

- ✓ 事前申込不要
- ✓ 社会人も見学OK!
- ✓ 保護者同伴OK!
- ✓ 1・2年生参加OK!
- ✓ 送迎バスあり!

プログラムは『体験授業』、『AO・推薦入試対策』、本学教員による『入試個別相談会』など志望校選択の決め手となるメニューを取りそろえております。

当日は沖縄本島内に送迎バスを6ルート走らせます!!

第1回

6/22
[土]

第2回

7/20
[土]

第3回

10/12
[土]

時間は共通 13:00~16:00

※詳しくは本学ホームページまたは入試課までお問合せください。

知りたいことは
気軽に先輩に質問!



学科の先生から実際に
学べる!!!!

情報

気になる入試情報を
しっかりチェック!

キャンパス見学

個別、仲間同士でゆっくり話を聞きたい方の為に
キャンパス見学も随時受付ています。

本学のスタッフと共に落ちついた雰囲気試験の
内容や学費等じっくりとお話できます。

ご希望に応じて、ミニ体験授業などを実施いたし
ます。見学を希望される方は事前に入試課までご
連絡ください。日程やプログラム等の内容を調整
させていただきます。

2020年度 入試日程

AO入試Ⅰ期 9月 3日(火)
9月 4日(水)

推薦入試 11月16日(土)

一般入試 2月 1日(土)

AO入試Ⅱ期 3月10日(火)

